令和６年度　高知県ナースセンター活動実績

（　高知県看護協会　任意様式で提出）

１　高知県からの受託事業名　　高知県看護職員確保対策事業

２　事業の従事者

1）責任者名　　高知県看護協会会長　藤原　房子

2）従事者

＊	氏名	従事期間	常勤・非常勤の別	担当した事業名
○	山本　由香	自　令和6年7月1日 至　令和7年3月31日	非常勤	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業
○	木村　知佳	自　令和6年9月1日 至　令和7年3月31日	非常勤	ナースセンター事業
○	谷口　喜美代	自　令和6年4月1日 至　令和6年8月31日	非常勤	ナースセンター強化事業
○	利岡　裕美	自　令和6年4月1日 至　令和6年7月30日	非常勤	ナースセンター事業
	生島　香	自　令和6年3月4日 至　令和7年3月31日	パートタイマー	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業
	森田　記代	自　令和6年4月1日 至　令和7年3月31日	常勤	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業

（注）職業安定法（昭和22年法律第141号）第33条の規定に基づく無料職業紹介所と連絡調整等の業務に従事したものについては＊印欄に○印を記入

３　事業別実施報告

1）事業の目的

保健師、助産師、看護師及び准看護師で、未就業の者に対し就業促進に必要な事業、看護業務等の PR 事業を行い、医療機関等の看護職員の確保に寄与する。また、看護師等の人材確保の促進に関する法律に基づく離職者の届出制度に対応し、スムーズな復職につなげる支援を行う。

2）ナースセンター事業

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、高知県の委託を受け高知県ナースセンターの運営を行う。

（1）看護職員就業促進事業

① 就業を容易にするための看護技能知識についての相談、就業に関する指導を行う

② 公共職業安定所との連携を図り、ナースセンターコンピューターシステム（NCCS）を利用して求人状況に関する情報の提供、就業の斡旋を行う。

≪実施曜日等≫

区　分	実施曜日	1 日の実施時間	年間実施日数
① 看護技能知識についての相談、就業に関する指導 ② 無料職業紹介事業	月～金	9 時 ～17 時	243 日

≪無料職業紹介所設置状況≫

委託先の名称	（名称） 高知県ナースセンター （所在地）高知市朝倉己 825-5 （電話番号） 088-844-0758
無料職業紹介所の有無	(有) 無 許可年月日　平成元年 3 月 24 日 許可期間　令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
取扱職種範囲の変更	保健師、助産師、看護師、准看護師、看護助手 変更年月日　令和 6 年 11 月1日

≪e ナースセンター求人登録施設数及び医療機関数等≫

区　分	病院(A)	診療所(B)	訪問看護（B）	その他（B）	計(A)+(B)
該当年度 4 月 1 日の総数	118	512 （うち有床 51）	99	—	729
eナースセンター 求人登録施設数	76	5 （うち有床 3）	19	46	146

※登録施設数は 2025 年 3 月 31 日時点の登録数

❶ ナースセンター相談室における相談支援

《相談数》　※令和7年3月末現在　（件）

内容	来所	電話	メール	郵送	その他	計
求職	37	255	93	202	38	625
求人	19	322	229	271	3	844
進学	3	62	33	51	83	232

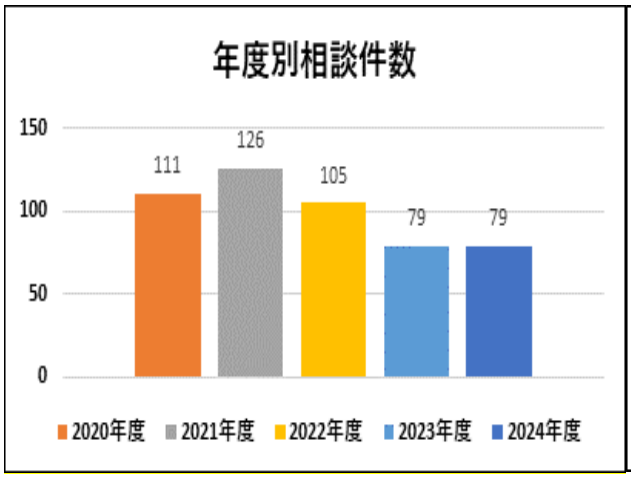
計　1,701

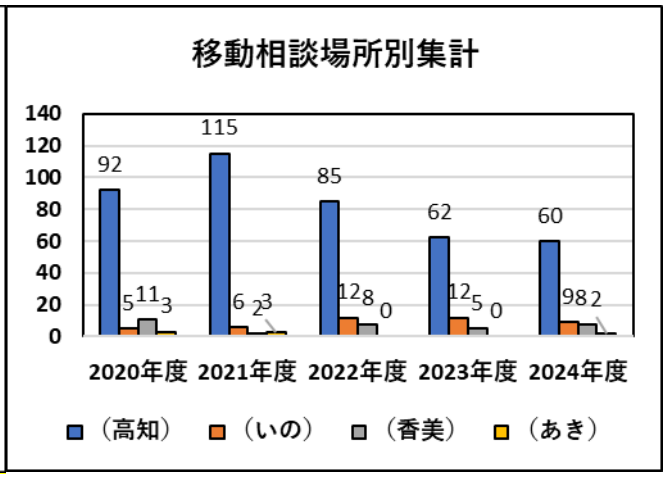
❷ 移動相談

ア 公共職業安定所（ハローワーク）出向相談実績

相談件数は昨年度と同程度の見込み。ハローワークとの連携により出向相談や医療機関の面接就職相談会に参加した。さらに 9 月からは、ハローワークとナースセンター間での情報共有に同意を得た求職者の名簿提供を受け、就業支援に活用するなど連携体制を強化した。

また、高知労働局主催の人材確保対策推進協議会に参加し、関係機関・団体と介護医療人材の確保に向けた取り組みや課題を共有した。





イ　高知県社会福祉協議会福祉人材センターとの連携

※令和7年3月 31 日時点

イベント名	開催日	場所	参加数	相談実績
福祉就職フェア	R6.8.24（土）	かるぽーと	1 名	相談件数　—
	R7.2.16 日（土）	かるぽーと	1 名	相談件数　1 件
ふくしフェア	R6.10.19（火）	イオンモール高知	1 名	相談件数　2 件

❸就職支援実績

≪ナースセンター登録者数及び就業率≫　　※2025 年 3 月 31 日時点

区　分	eナース登録 未就業者数（A）	eナース新規 登録者数（B）	就業者数 （C）	就業率
保健師、助産師	14 人	5 人	0 人	0.0%
看護師、准看護師	380 人	71 人	98 人	21.7%
看護補助者	3 人	2 人	1 人	2%
計	397 人	78 人	99 人	20.8%

※（A）、（C）は延べ人数

≪職種別　就職者数≫　　※2025 年3月 31 日時点　　（人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助産師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護師	5	3	8	20	13	6	3	11	10	7	4	8	98
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護補助者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総計	5	3	8	20	13	6	3	12	10	7	4	8	99

≪雇用形態別　就職者数≫　　※2025 年3月 31 日時点　　（人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
常勤	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	1	8
非常勤	1	1	1	1	1	1	0	1	3	1	0	1	12
臨時雇用	4	2	7	19	12	5	3	9	5	5	2	6	79
総計	5	3	8	20	13	6	3	12	10	7	4	8	99

≪ハローワーク連携事業も含めた就職数≫　　（人）

	登録人数	就職数
e ナースセンターに登録	393	87
連携同意者で e ナースセンター登録	18	
連携同意者で e ナースセンター未登録	14	12
計		99

（重複を除く）

（2）「看護の心」普及事業

① 高校生及び学校の進路指導担当者等を対象に、看護職等についての知識や理解を深める機会とし、将来の看護職の人材確保のための広報活動、進路相談事業を行う。

② 「看護の心」の普及啓発を通じて、県民一人ひとりの看護についての関心を高め、理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図るための事業を行う。

❶ 「看護の日」イベント

ア　こうち看護フェア

【日時】5 月 25 日（土） 13 時～16 時 30 分

【場所】高知県看護協会会館

【参加人数】 23 校 **156 名**（保護者 13 名）　※高知県下の高等学校 54 校に案内通知

参加者	1年生	2年生	3年生	計
生徒	28	39	89	156
保護者	3	4	6	13

【内容】

先輩看護職の語り：看護師・保健師・助産師・訪問看護師 （計4名）

看護系学校：高知大学医学部看護学科、高知県立大学看護学科、高知学園短期大学看護学科、高知県立幡多看護専門学校、龍馬ふくし専門学校、高知開成専門学校、近森病院附属看護学校 （計7校）

【感想等】

先輩看護職の語り、看護系学校・県の奨学金について説明の後は、生徒と保護者の自由時間とし、各ブース（看護体験、進学・奨学金相談、白衣体験・「かんごちゃん」との写真撮影含む）に分かれて過ごした。生徒からは「より看護師になりたいという気持ちが強まりました。参加して良かったです。」「先輩方の経験とかを聞けて参考になったし、今までより看護職になりたいっていう気持ちが強くなった。」等の好評を得た。

進学相談では高知県立大学への相談者が多く、次に高知学園短期大学や高知大学、近森病院附属看護学校、幡多看護専門学校、開成専門学校、龍馬ふくし専門学校の順であった。相談者の偏りによる運営の難しさを解消するため、来年度は相談者が多く見込まれる学校には教員の増員を相談したい。

イ ラッピングバスの巡行による PR

47 都道府県が4年をかけて取り組んだ、日本看護協会事業の一環である「看護の日・看護週間」PR バスイベントを開催した。

【日時】5 月 14 日(火)

【出発式】県庁正面玄関前にて、県職員7名(高知市長、副知事、県健康政策部副部長ほか)、近森病院附属看護学校の生徒 25 名ほかを招待

【巡回】高知市内と南国市内

【出発式】

「看護の日・看護週間キャラクターのかんごちゃん」を紹介し、一般来庁者にも「看護の日・看護週間」をアピールした。生徒や教員からは、「知らないことが沢山あった。」「学生の良い刺激になった。」などの感想があり、盛況のうちに終えることができた。また、テレビのニュース放映を見た看護職から、就業相談や出前授業に関する問い合わせがあったことから、今後も様々な媒体による広報活動を継続していく。

❷ 看護の出前授業

【日時】5 月 14 日(火)

【場所】土佐塾中学校(大ホール)

【対象】中学3年生180名

【講師】高知医療センター看護副科長　大麻康之

生徒からは、「看護師が働く場所は病院だけだと思っていたが、色々な働き方があることを知り、今後の進路で考えていきたい。」「フライトナースに興味持った。」「人の命を助ける仕事に関心を持った。」などの感想が聞かれた。

講師からも自分の看護観を認識することができ、こういった機会があれば出向きたいという意見があった。

❸ ふれあい看護体験

【開催期間】令和 6 年 7 月 26 日～8 月 24 日の夏休み期間

【参加申し込み状況と参加者数】　（人）

	令和5年度	令和6年度
申込高校数	29	30
申込数	444	352
参加人数	**179**	**284**
お断り生徒数	219	42
当日欠席数	46	26
受入れ施設数	36	47
受入れ可能人数	232	335
受入れ中止施設数	7	1

【学年別分類】　（人）

	1年生	2年生	3年生
参加希望人数	70	80	202
体験予定人数	66	67	177
体験できない人数	4	13	25

昨年度の協力病院は 36 施設（受入れ可能人数 232 人）であったが、今年度は 47 施設（受入れ可能人数 335 人）と、施設数、受け入れ人数ともに増加した。高校生の参加申込数は 352 名と、昨年の 444 名に比べ減少しているが、国体に参加している生徒に対して申込期間内に担当教諭から声をかけられなかった等の事情があった。

例年通り、受入れ可能人数に対して申込数が上回っており、400 床以上の病院への希望も多かった。希望の偏りも相まって 310 名の振り分けとなり、42 名は体験できない結果となった。

新型コロナウイルス感染症の流行により中止施設は1，参加者の体調不良等によるキャンセル等により、参加者実績は 284 名であった。

参加者からは、「やりがいのある仕事だと思い、より看護師になりたい気持ちが強まった。」等、受け入れ施設からは、「スタッフにとっても看護師を目指す後進の存在は刺激になり、初心に帰る機会になったと思います。」等、各々から好評を得た。

来年度はさらに受入れ施設を増やし、大勢が参加できるようにしていきたい。

❹ 外部機関等との連携事業

ア とさっ子タウン

【主催】 高知市民活動サポートセンター、認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議

【日時】 8 月 17 日（土） 9:30～17:15　 8 月 18 日（日） 9:30～16:15

【場所】 高知市文化プラザかるぽーと 7 階

【対象者】 10～15 歳（小学校 4 年生～中学校 3 年生）

【申込・参加数】 全体

	小学生	中学生
参加申込数	445	83
参加人数	411	81

計 492 名

【ナーセンターのお仕事体験者】 57 名

こどもたちが市民となり運営する「こどものまち」とさっ子タウンにて、「ナースセンターのお仕事ブース」を設置した。参加者（とさっ子求職者）数は、昨年度の 32 名から 57 名に増加した。

こどもたちは、血圧や血中酸素飽和度の測定等は初めての体験で、興味深そうに楽しく行っていた。来年度は、さらに看護職という職業に関心を持ってもらえるよう、採血や点滴等の新たな体験内容の追加を検討していきたい。

イ 地区支部支援

室戸・安芸地区支部 「安芸元気フェスタ」（11 月 17 日）まちの保健室事業に子供用白衣を貸出
白衣体験 10 名

（3）広報など

方法	実施内容
研修概要チラシや研修参加申込書を設置・掲示	設置場所：ハローワーク、その他就業活動施設（ジョブカフェ高知、こうち男女共同参画センター「ソーレ」）
とさでん広告	とさでん交通の主要駅の待合所・掲示板等に掲示 看護ファア（1 回、10 か所
高知県看護協会ホームページ	看護フェアやふれあい看護体験の広報 eナースセンターの広報
「看護こうち」	6,200 部×年 3 回（4、8、1 月）発行イベント報告を掲載 求人情報リーフレットの挟み込み

（4）会議等

❶ナースセンター委員会

看護のこころ普及事業を展開するにあたり、委員会で企画・実施・評価を行った。

ア　委員

期間	氏　名	施　設　名	職　種
6 月 14 日まで	小川　栄子（委員長）	島津病院	看護師
	三木　初美	高知赤十字病院	看護師
	斎藤　真由美	JA 高知病院	助産師
年間	足達　恵美	安芸市役所	保健師
	田上　健太	南国病院	看護師
	中平　律子	だいいちリハビリテーション病院	看護師
6 月 15 日から	前田　　綾	愛宕病院	看護師
	中村　水苗	JA高知病院	助産師
	佐藤　久美子（委員長）	白菊園病院	看護師

イ　開催状況

開催回	開催日	参加数	議　　題
第 1 回	R6.4.16（火）	委員　2 名 事務局 4 名	PRバスの運行について 令和 6 年度こうち看護フェアについて
第 2 回	R6.5.25（土）	委員　4 名 事務局4名	令和 6 年度こうち看護フェアの反省会
第 3 回	R6.7.30（火）	委員　3 名 事務局3名	令和 6 年度こうち看護フェアの実績報告 令和 6 年度ふれあい看護体験の途中報告 令和 6 年度とさっ子タウンについて　他
第 4 回	R6.10.25（金）	委員　3 名 事務局 4 名	令和 6 年度ふれあい看護体験の実績報告 令和 6 年度とさっ子タウンの途中報告 令和 7 年度こうち看護フェアの企画
第 5 回	R7.2.28（金）	委員　3 名 事務局 3 名	令和 6 年度とさっ子タウンの追加報告 令和 7 年度こうち看護フェアの進捗

❷中央ナースセンター主催の担当者会

会議名称	開催日	参加方法	参加数
担当者会	第 1 回 R6.5.21	WEB	2 名
	第 2 回 R7.3.14	WEB	4 名
ラッピングバス実施報告会	R6.6.27	WEB	3 名
ナースセンター事業担当者情報交換会（中国・四国・九州ブロック）	第 1 回 R6.7.24	WEB	3 名
	第 2 回 R6.9.12	WEB	4 名
	第 3 回 R6.11.28	WEB	5 名
	第 4 回 R7.1.29	WEB	4 名

3）ナースセンター強化事業

①　離職者の把握と早期復職の支援を行う。

・　医療機関を訪問し届出制度によるナースセンターへの登録普及活動

・　医療機関等の離職者等の状況を把握(とどけるん)
・　就業相談

②　潜在看護職員復職研修事業を実施する。

（1） 離職者の早期把握と早期復職支援

❶ 施設訪問

【目的】 地域の医療機関・施設を訪問し、就業数、離職率の割合や看護職員の勤務形態の現状について握握する。管理者と顔の見える関係をつくり求職者が就業先として選択しやすい環境を整える。

≪施設訪問数≫

医療機関	施設・ 訪問看護 ST	市町村	学校	合計
23	0	0	0	23

≪訪問施設名≫

地　区	医　療　機　関　名
高知市内	川村病院、鏡川病院、岡林病院、高知生協病院、国吉病院、愛幸病院、藤戸病院、高知総合リハビリテーション病院、三愛病院、朝倉病院、竹下病院、島津病院
安芸方面	あき総合病院、森澤病院
須崎方面	くぼかわ病院、須崎くろしお病院
いの・佐川方面	さくら病院、前田病院
幡多方面	木俵病院、筒井病院、聖ヶ丘病院、竹本病院、森下病院

施設を訪問し、看護責任者と面談することで、施設の特徴や求人情報を把握でき求職者に説明しやすくなった。また、ナースセンターを理解してもらい、届出制度や e ナースセンター登録への広報ができた。今後も、未訪問の医療機関を中心に計画的な訪問を行い、情報収集及び広報を行う。

❷ 離職者把握（とどけるんの普及）

≪とどけるん登録状況≫

	新規登録者数	前年比
R4 年度	58	−77
R5 年度	28	−30
R6 年度	24	−4

とどけるんの普及に向けて、主旨と QR コードを載せた名刺サイズのカードを 1,000 部作成し配布した。

❸ 訪問看護事業サポート連携事業

令和 5 年度に高知県訪問看護総合支援センターが設置され、訪問看護に関心がある、又は訪問看護への就職を考えている潜在看護師を対象に実施している。
こうち看護協会訪問看護ステーションで 4 名が訪問看護の体験を実施した。

❹ 再就職相談会

看護職を確保したい施設の求人担当者の参加を得て再就職を考えている看護職を対象に 2 回開催した。

【実績】相談会のマッチングで 2 名が就職。相談会とは別の施設に 7 名が就職。参加により最近の求人条件等を知ることで、再就職への意欲の高まりもあったと思われる。

開催日	8/24（土）	2/1（土）
求人施設数	7 （病院 6、訪問看護1）	8 （病院7，児童福祉施設 1）
求職者数	9	8
就職者数	1	1
ハローワークなどでの就職者	6	1

【求職者の年代】

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上
第1回	1	1	2	3	2
第2回	1	1	3	2	1

ハローワークとの連携により把握した求職者や、e ナースセンターの登録者に手紙やメールで案内したが、参加者数は少なかった。不参加理由として、「参加施設が自分の希望する職場でない」「退職直後でも次の施設が決まっている」「有料職業紹介所を利用している」などの声があった。魅力あるものとしていくために、参加施設を病院に限らず、様々な分野の事業所にも依頼していく。

また、ハローワークとの連携のみでは参加者の確保が難しい状況にあり、復職支援研修やプラチナナースセミナーとの抱き合わせなども検討していく。

（2）研修活動報告

❶ 潜在看護職員復職研修事業

ア 潜在看護職員等復職支援研修

【目的】復職のための心構え、最新の看護現場の状況、看護実践に必要な基本的知識と技術等を確認することにより復職を支援する。

【開催日】7 月 4･5 日　10 月 3･4 日（各 2 日間）

【参加者】 計 18 名　就職した者：13 名（令和7年 2 月現在）

【研修（講義・演習）プログラム】 講師は専門分野で活躍している看護師

講義時間	テーマ	講師
30分	医療を取り巻く社会の変化	高知県看護協会会長　藤原房子
90分	感染管理の基礎知識	地域医療機能推進機構　高知西病院　笠原久美
90分	救急対応	高知大学医学部附属病院　看護師長　小原志津・松本貴代
90分	医療安全の基礎知識	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 医療安全管理担当部長　西山由加
90分	創傷管理の基本	≪皮膚・排泄ケア認定看護師≫ 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター　竹崎陽子
90分	注射・採血・点滴・吸引	看護師　杉本美和子 いずみの病院　看護師　石川由紀

【　2024年度　潜在看護職員等復職支援研修　】

2023年度			2024年度		
開催月	参加	就職	開催月	参加	就職
6月	9	3			
9月	9	0	7月	10	8
12月	4	1	10月	8	5

本年度は昨年度より研修開催回数を減らしたこともあり、講義参加者数、実務研修参加者数ともに減少した。しかし、参加後の就業状況を把握すると、就業中の者は昨年度を大幅に上回った。この背景として、50 歳未満、あるいは離職 5 年未満の参加者割合が、昨年度よりも本年度の方が多かった影響と考える。

研修内容は、おおむね高評価だったが、受講者のほとんどは実技に対する不安を吐露しており、演習時間の延長を希望する感想もあった。この点は課題と考えられる。来年度は 3 回の研修開催とし協力施設ともさらに連携しながら、引き続き受講者のニーズに沿った研修を企画していく。

イ　実務研修

【協力医療機関数】 15 施設

【研修参加実績】 1 名　　11 月 21･22･25 日（3 日間）

【　2024年度　実務研修　】

協力施設	実務人数	就職者数	雇用形態
三愛病院	1	1	

＊　就職先は他施設

実務者研修参加者からは、昨年同様、「徐々に病棟での感覚も戻り、次の就職への自信につながった」、と前向きな感想が聞かれた。

❷　プラチナナースセミナー

【目的】 看護職の方々が培った豊かな経験を活かして多様な形で地域や社会に関わることを考える機会にする。

【日時】 2025年1月21日（火）

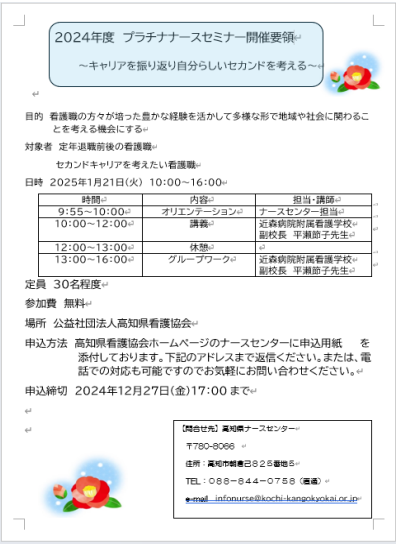
【講師】 近森病院附属看護学校副校長　平瀬節子

【内容】 キャリアトランプによる自己分析

【参加人数】 12名申込　10名参加

【感想　】今までの人生の振り返りが出来て良かった。
　　自分が大切にしてきたものが明確化できた。

来年度は退職後も自分のライフスタイルを大切に県内の医療機関で働いている看護職の方々に自身の体験を講話してもらい、今後の働き方のヒントを見つけられるような研修にする。



2024年度　プラチナナースセミナー開催要領

～キャリアを振り返り自分らしいセカンドを考える～

目的　看護職の方々が培った豊かな経験を活かして多様な形で地域や社会に関わることを考える機会にする。

対象者　定年退職前後の看護職
　　セカンドキャリアを考えたい看護職

日時　2025年1月21日(火)　10:00～16:00

時間	内容	担当・講師
9:55～10:00	オリエンテーション	ナースセンター担当
10:00～12:00	講義	近森病院附属看護学校 副校長　平瀬節子先生
12:00～13:00	休憩	
13:00～16:00	グループワーク	近森病院附属看護学校 副校長　平瀬節子先生

定員　30名程度

参加費　無料

場所　公益社団法人高知県看護協会

申込方法　高知県看護協会ホームページのナースセンターに申込用紙　を添付しております。下記のアドレスまで返信ください。または、電話での対応も可能ですのでお気軽にお問い合わせください。

申込締切　2024年12月27日(金)17:00 まで

【問合せ先】高知県ナースセンター
〒780-8066
住所：高知市朝倉己825番地5
TEL：088－844－0758（直通）
e-mail　infonurse@kochi-kangokyokai.or.jp

（3）調査等

県内 118 の病院を対象に看護職の確保やワークライフバランスに関するアンケート調査を実施した。

【目的】高知県内の病院における看護職の就業及び確保定着状況の実態を明らかにすることで、高知県看護協会が果たす役割を明確にし、支援の方法を検討する。

【調査方法】 対象　県内の病院　118 施設の看護管理者
　　方法　郵送アンケート調査

回答数 53　　（回収率 44.9%）

【結果】令和6年4月1日現在の看護職員の定数充足状況は、「充足している」26.4%、「何とか対応している」45.3%、「不足している」が 13.2%であった。また、採用ルート別採用者数は、自主的 223 名、ハローワーク 122 名、知人・友人 77 名、有料職業紹介事業所 70 名であった。そして、有料職業紹介事業所の活用率は 52.8%、一人当たりの紹介手数料は約 716,000 円であった。ナースセンター事業としては、人材確保への支援の強化が急務である。

（4）広報など

方法	実施内容
研修概要チラシや研修参加申込書を設置・掲示	設置場所：ハローワーク、その他就業活動施設（ジョブカフェ高知、こうち男女共同参画センター「ソーレ」）
とさでん広告	とさでん交通の主要駅の待合所・掲示板等に掲示 復職支援研修（2 回）再就職相談会（2 回）、プラチナセミナー（1 回）（10 か所）
高知県看護協会教育計画リーフレット	ナースセンター実施の研修を掲載
高知県看護協会ホームページ	研修内容や申込方法等を掲載
「看護こうち」	6,200 部×年 3 回（4、8、1 月）発行　セミナー等報告を掲載
高知県看護協会公式 LINE	プラチナナースセミナー等案内メッセージを送信
中央ナースセンターとの連携	「看護職の就業・確保・定着状況及びナースセンターへの届出制度普及状況等調査」の活用について周知　　チラシ送付：118 施設

（5）会議等

❶高知県ナースセンター運営協議会

ナースセンターのあり方や効果的な事業の運営等について検討を行い、外部関係機関と連携した支援を実施することにより、看護職員の確保・定着を図ることを目的として設置している。

今年度も 2 回開催し、事業の効果的な運営について、協議がなされた。

ア　委員

氏　名	役　　職
久保田　富女	高知県健康政策部医療政策課　看護担当チーフ
計田　香子	一般社団法人高知県医師会　常任理事
辻　由紀子	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター　看護局次長
中川　香代	高知大学人文社会科学部　名誉教授
森　　郁雄	高知労働局職業安定課　課長
萩原　　浩	高知県病院診療所事務長連絡協議会　理事
平瀬　節子	近森病院附属看護学校　副校長
藤田　佐和	高知県立大学看護学部　教授
藤原　房子	公益社団法人高知県看護協会　会長
吉永　富美	社会医療法人近森会　看護DX推進部長

イ 開催状況

開催回	開催日	参加数	議　題
第 1 回	R6.9.5（木）	委員　10 名 事務局 3 名	令和 6 年度ナースセンター事業計画 看護補助者の確保・定着推進事業 高知労働局からの情報提供
第 2 回	R7.3.13（木）	委員　9 名 事務局 3 名	令和 6 年度ナースセンター事業の実績について 令和 7 年度ナースセンター事業の取り組み（案）について

❷外部会議への参加

看護職員の確保等に関する外部会議に、ナースセンター担当役員と相談員が参加した。

会議名称	主催者	開催日	会場	参加数
令和 6 年度第 1 回高知県福祉・介護人材確保推進協議会	高知県長寿社会課	R6.6.13	高知城ホール	1 名
令和 6 年度高知県人材確保対策推進協議会	高知労働局職業安定部	R6.7.19	ちより街テラス	3 名
令和 6 年度高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会	高知県社会福祉協議会	第 1 回 R6.8.6	ふくし交流プラザ	1 名
		第 2 回 R7.3.17		1名
福祉研修実施機関ネットワーク会議	高知県社会福祉協議会	第 1 回 R6.8.6	ふくし交流プラザ	1 名
		第 2 回 R7.3.3		1名
ふくしフェア 2024 実行委員会	高知県社会福祉協議会	第 2 回 R6.7.30	ふくし交流プラザ	2 名
		第 3 回 R6.10.1		2 名
		第 4 回 R6.12.23		1 名

4） 今後の課題と対応

〇看護師確保に向けたは、各医療機関や介護施設等も様々な働き方による受け入れを進めており、求職者に要望に応じられるよう工夫されている。就職を希望する看護職に対し、相談対応することで就労につながる可能性は高い。ただ、就労に結びつかいない看護職も少なからずいるが、そうした看護職は、自身の治療、育児・介護との両立などの課題など、再就職に踏み切れない問題に対し、丁寧に相談対応していく必要がある。

〇就職支援では、潜在看護職の把握困難の課題は解消されず、持続している。
ハローワークとの連携は強化されつつあるが、それ以外の未就業者とのコンタクトポイントが弱い。当協会は職能団体のため、会員以外への広報手段は弱く、委託元の県や関係機関団体の協力を得た活動が必要である。

〇退職者の早期把握において有効なツールである「とどけるん」の活用や、eナースセンターの利用を促進する必要がある。また、運用開始が令和 7 年秋に延期されたNuPSの機能に期待し、周知を徹底していく。

〇看護職の魅力発信については、看護職全体が取り組む役割にあるが、そうした活動に対する支援力をナースセンターとして充実強化していく必要がある。